

## 奥地 正教授略歴・主要著作目録

### 略 歴

1933年(昭和8年)8月24日 和歌山県新宮市に生まれる  
 1954年(昭和29年)4月 京都大学農学部入学  
 1958年(昭和33年)3月 同大学同学部農林経済学科卒業  
 1958年(昭和33年)4月 同大学大学院農学研究科(農林経済学専攻)修士課程入学  
 1960年(昭和35年)3月 同課程修了  
 1960年(昭和35年)4月 同大学大学院農学研究科(農林経済学専攻)博士課程進学  
 1963年(昭和38年)3月 同課程単位取得修了  
 1964年(昭和39年)4月 財団法人林業経営研究所研究員  
 1973年(昭和48年)3月 同研究所退職  
 1973年(昭和48年)4月 立命館大学経済学部助教授  
 1974年(昭和49年)4月 同大学同学部教授, 現在に至る

### 役 職 歴

1979年(昭和54年)4月～1980(昭和55年)年3月 経済学部・同研究科主事  
 1980年(昭和55年)4月～1981年(昭和56年)3月 経済学部調査委員長  
 1987年(昭和62年)4月～1989年(平成元年)3月 二部協議会委員長  
 1994年(平成6年)4月～1996年(平成8年)3月 経済学部長・経済学研究科長

### 学 会

林業経済学会, 土地制度史学会, 日本経済政策学会, 経済理論学会, 経済学教育学会, 環境経済・政策学会

### 留 学

1990年(平成2年)9月～1991年(平成3年)9月 英国(サセックス大学)に留学

### 学 位

1973年(昭和48年) 農学博士(京都大学)

### 研 究 業 績

#### 著 書

1. 三橋時雄編『戦後日本農業の史的展開』(共著), ミネルヴァ書房, 1975年  
 ——「森林組合の発展とその性格」(第9章第2節)
2. 林業構造研究会編『日本経済と林業・山村問題』(共編著), 東京大学出版会, 1978年

- 「現代日本資本主義と林業・山村」（序章）
- 「森林組合事業の展開と民有林業の再編成」（第Ⅱ章第4節）
- 「林業生産の「合理化」と林業労働」（第Ⅱ章第5節）
- 3. 鷺尾良司・奥地 正編『転換期の林業・山村問題』（共編著），新評論，1983年
  - 「環境問題と林業・山村」（第3章）
  - 「国土開発政策と山村」（第16章）
- 4. 大藪輝雄・奥地 正・甲賀光秀編『現代日本の資本主義（講座・現代日本社会の構造変化3）』（共編著），有斐閣，1985年
  - 「現代日本の国土開発政策」（第5章）
- 5. 『現代社会を考える（新「学問のスヌメ」2）』（共著），法律文化社，1987年
  - 「森・水・空気——ゆがむ環境」（第Ⅱ章第2節）
- 6. Ryoichi Handa (edit.) “Forest Policy in Japan”（共著），Nippon Ringyō Chōsakai, February 1988.
  - ‘Development of Forestry Production and Forestry Labour’（Ⅲ-13）
- 7. 高内俊一・奥地 正ほか編『80年代日本の危機の構造（上）』（共編著），法律文化社，1988年
  - 「国土開発政策と環境危機」（第5章）
- 8. 高木 彰・岩田勝雄編『21世紀経済学のパラダイム』（共著）法律文化社，1995年
  - 「「持続可能な開発」と日本の国土・環境問題」（第8章）

## 論 文

1. 「戦後における小農労働力の変質過程」（修士論文）1960年3月
2. 「林地価格形成の諸類型について」、『林業経済』No. 185, 1964年3月
3. 「伐出労働力と「組」組織—京都府山国における素材生産の構造—」、『林業経済』No. 202, 1965年8月
4. 「いわゆる二範疇林業の地代論的意義—戦後林業地代論批判への序章—」、『林業経済』No. 215, 1966年9月
5. 「地代論の理論的前提について—いわゆる資本・技術・土地面積“一定”とは何か—」、『林業経済』No. 216, 1966年10月
6. 「採取的林業における豊度の概念—半田・鈴木両氏批判—」、『林業経済』No. 217, 1966年11月
7. 「採取的林業における差額地代（1）—豊度にもとづく差額地代—」、『林業経済』No. 218, 1966年12月
8. 「採取的林業における差額地代（2）—位置にもとづく差額地代—」、『林業経済』No. 220, 1967年2月
9. 「採取的林業における「差額地代第二形態」の問題について」、『林業経済』No. 221, 1967年3月
10. 「二範疇林業共存下における木材価格の形成」、『林業経済』No. 225, 1967年7月

11. 「育成的林業における差額地代（１）－豊度にもとづく差額地代－」, 『林業経済』 No. 226, 1967年 8 月
12. 「育成的林業における差額地代（２）－位置にもとづく差額地代－」, 『林業経済』 No. 227, 1967年 9 月
13. 「悪化する林業労働」, 『農林統計調査』 1970年12月
14. 「林業労働の現段階」, 『林業経済』 No. 273, 1971年 7 月
15. 「過疎下の林業・山村問題－森林組合に焦点をおいて－」, 『国土問題』 No. 8, 1973年 3 月
16. 「森林組合労務班の現状と当面する諸問題」, 『林業経済』 No. 301, 1973年11月
17. 「戦後日本資本主義と林業・山村問題の展開構造」, 『立命館経済学』 第22巻第 5・6 号, 1974年 2 月
18. 「国有林における労働組織の形成と展開(1)－東北・秋田国有林を中心に－」, 『立命館経済学』 第23巻第 4 号, 1974年10月
19. 「国有林における労働組織の形成と展開(2)－東北・秋田国有林を中心に－」, 『立命館経済学』 第23巻第 5・6 号, 1975年 2 月
20. 「国有林における労働組織の形成と展開(3)－東北・秋田国有林を中心に－」, 『立命館経済学』 第27巻第 4 号, 1978年10月
21. 「国有林における労働組織の形成と展開(4)－東北・秋田国有林を中心に－」, 『立命館経済学』 第27巻第 6 号, 1979年 2 月
22. 「転換期の住宅問題」, 『立命館経済学』 第29巻第 5 号, 1980年12月
23. 「経済政策の展開と住宅問題」, 『経済』 No. 208, 1981年 8 月
24. 「いわゆる土地国有化の理論的基礎（上）－若干の整理と覚え書－」, 『立命館経済学』 第31巻第 1 号, 1982年 4 月
25. 「いわゆる土地国有化の理論的基礎（中）－若干の整理と覚え書－」, 『立命館経済学』 第31巻第 3 号, 1982年 8 月
26. 「日本経済と住宅政策の今日的課題」, 『現代日本の住宅改革（ジュリスト増刊・総合特集 No. 30）』, 1983年 3 月
27. 「住宅政策の現状と課題－“住環境”に焦点をおいて－」, 『都市問題研究』 第35巻第 8 号, 1983年 8 月
28. 「現代日本の国土・環境問題と森林資源－都市と山村をむすんで－」, 『科学と思想』 No. 63, 新日本出版社, 1987年 1 月
29. 「90年代日本の国土・環境問題」, 『立命館経済学』 第41巻第 6 号, 1993年 2 月
30. 「ナショナル・トラスト運動－その源流・英国と日本の今日－」, 『立命館地域研究』 第 3 号, 1993年 3 月
31. 「日本の林業・農山村と国土・環境問題」, 『立命館経済学』 第46巻第 3 号, 1997年 8 月
32. 「産業構造の変化と国土・環境問題（上）」, 『立命館経済学』 第46巻第 4 号, 1997年10月

## 報告書

1. 『日本経済の二重構造と農業発展に関する研究（農林水産業特別試験研究費補助金による研

- 究報告書』』（共著），1961年3月  
 ——「あとつぎの意識形態からみた農家の滞留構造」
2. 昭和36年度『近畿型農業の発展条件に関する研究（同前）』（共著），1962年3月  
 ——「戦後における農地移動と農地価格」
  3. 昭和37年度『近畿型農業の発展条件に関する研究（同前）』（共著），1963年4月  
 ——「工業化と農業構造の変貌過程—滋賀農業の場合—」
  4. 『林地価格に関する調査研究(3)—林地売買の実態—』（共著）林野庁調査課，1963年7月
  5. 『びわ湖漁家経済調査成果報告書』近畿地方建設局，1964年4月
  6. 『経済成長と農林業の構造変貌—山村における日雇労働者の就業構造—』京都府農業会議，1965年5月
  7. 『林業労働組織に関する研究（I）』林業経営研究所，1968年3月
  8. 『森林組合労務班の先進事例に関する調査研究』林業経営研究所，1972年3月
  9. 『国有林地帯における森林組合の発展条件に関する調査研究』林業経営研究所，1974年3月
  10. 『森林組合の広域・大型化に関する調査研究』林業経営研究所，1975年9月

#### 書評・その他

1. 「(著書紹介) 並木正吉著『農村は変わる』」、『農業と経済』1960年10月
2. 「(著書紹介) 山崎春成著『日本の農業問題』」、『農業と経済』1961年10月
3. 「(特別レポート) 上がる農地←→下がる農地」、『農業富民』1961年12月
4. 「(著書紹介) 現代日本の“小農経済論”—裕 正夫著『日本農業の経済構造』」、『農業と経済』1963年12月
5. 「滋賀県の農業」(執筆項目)、『体系・農業百科事典』第5巻，(財)農政調査委員会，1965年
6. 「農地移動」，「農地価格」(執筆項目)、『体系・農業百科事典』第6巻，(財)農政調査委員会，1967年
7. 「公有林」，「国有林」(執筆項目)、『社会科学大事典・第7巻』鹿島出版会，1969年
8. 「御料林」(執筆項目)、『社会科学大事典・第8巻』鹿島出版会，1969年
9. 「森林組合」(執筆項目)、『社会科学大事典・第11巻』鹿島出版会，1969年
10. 「新たな林業労働問題研究の展開を」、『林業経済』No. 255，1970年1月
11. 「部落有林」，「分収林業」(執筆項目)、『社会科学大事典・第16巻』鹿島出版会，1970年
12. 「木材」，「木材価格」，「木材市場」(執筆項目)、『社会科学大事典・第18巻』鹿島出版会，1971年
13. 「林業労働の現段階」、『林業経済研究会会報』No. 79，1971年3月
14. 「林業」，「林業政策」，「林業地代」，「林業労働者」(執筆項目)、『社会科学大事典・第19巻』鹿島出版会，1971年
15. 「Q君への手紙—森林組合，ことに労務班の現状にかかわって—」、『林業経済』No. 281，1972年3月
16. 「日本経済の構造変化と林業および林政」(第4編第1章)——『森林組合制度史Ⅱ』全国森林組合連合会，1973年

17. 「森林組合労務班の形成と展開」(第4編補章)——『森林組合制度史Ⅱ』全国森林組合連合会, 1973年
18. 「(コメント)半田報告への論点開示」, 『林業経済』 No. 294, 1973年4月
19. 「森林組合労務班の現状と当面する諸問題」, 『林業経済研究会会報』 No. 82, 1973年8月
20. 「(経済学オリエンテーション)日本経済」, 『経済』 No. 157, 1977年5月
21. 「林業地代」, 「林業の資本主義化」, 「林業の生産力」, 「林業労働者」(執筆項目), 『大月・経済学辞典』大月書店, 1979年
22. 「(新刊案内)『今日の資本主義〔2〕—日本資本主義の展開過程』」, 『経済』 No. 215, 1982年2月
23. 「(書評)依光良三著『日本の森林・緑資源』」, 『日本の科学者』第20巻第1号, 1985年1月
24. 「(新刊案内)藤田佳久著『現代日本の森林木材資源問題』」, 『経済』 No. 249, 1985年1月
25. 「日本の森林・緑と日本人はいま」, 『Tradepia』第175号, 日商岩井 K. K., 1985年5月
26. 「今日の住宅問題と今後の住宅政策」, 『国民生活』国民生活センター, 1985年6月
27. 「(和書案内)小池正雄著『林業労働の研究』」, 『農林水産図書資料月報』1989年1月
28. (退職記念最終講義)「地球環境問題と日本の森林・山村」, 1998年12月17日